



こんにちは 和田あき子です

令和4年度（2022年度） 決算認定——反対討論



令和4年度長野県一般会計決算は、歳入額1兆2092億円、歳出額1兆1872億円で、コロナウイルス感染症対策に加え物価高騰の対策のため3年連続で1兆円を超える大型予算でした。国の予算を活用

して累次の対策はしているものの、子育て支援はじめ県民生活を支えるための県独自の対策が不十分でした。

阿部県政は3期目から4期目の県政運営で、積み増している財政調整基金や減債基金の活用などで県独自の対策をとるべきと指摘をし、さらに人間らしく働く環境づくり、子育て支援や社会保障の充実など、県民の願いを最優先する県政に根本から改革を進めてこそ、希望の持てる長野県をつくる道ではないかと反対討論を結びました。

少子化・人口減少対策 調査特別委員会

少子化が進む中、県は2023年8月に少子化・人口減少対策戦略検討会議を設置しました。そして、県議会では少子化・人口減少対策調査特別委員会が発足しました。

県議会としては、これまでに少子化対策条例（仮称）制定検討調査会が県民意見募集など調査・検討を経て、2022年2月に「県民の希望をかなえる少子化対策の推進に関する条例」の制定をしました。

私は、県議会の条例検討の調査会につづき、今回発足した特別委員会の委員として積極的に取り組んでいきたいと思えます。



駆ける 農政林務委員会 ——県外現地調査——

北海道下川町は面積644平方kmで9割が森林です。SDGsに向けた森林・林業・エネルギー政策の取り組みが進んでいます。森林バイオマスエネルギー利用として、10基の木質バイオマスボイラーによる熱供給システムで公共施設はじめ30施設に熱を供給。町でエネルギーを確保して、その財源で子育て支援を進めているようすや施設を視察。（10/31）



「牛ファースト、牛を一番に考える」妹背牛町（もせうし）で唯一の牧場を視察。餌寄せロボットや搾乳ロボットを導入して労働量を軽減しながら120頭を飼育。乳量増加、乳質改善をしている様子を視察。（11/1）

その他にもジビエ加工施設と加工品活用。北海道立林業大学なども視察。

農政委員会

○国産飼料への転換を進める事業の取り組みと合わせて、昨年から継続している畜産・酪農への飼料等の高騰対策は高騰分の一部を補填。経営の実態把握を求めました。

○学校給食で地産地消をすすめ、県産・地場産の食材利用を進めてきたが、食料品の高騰によって、限られた給食費のため食材を県外や外国産に置き換えられていることを質しました。そして、以前おこなっていたように教育委員会と連携して予算を確保して、学校給食の「地域食材の日」など県産農産物の利用を増やすよう求めました。



林務委員会

○木材価格が高騰したウッドショック後、木材価格はピークアウトしたと言われているが、県産木材の安定的な供給体制の構築について質問。また、高性能林業機械を導入するときは補助があるが更新する際の補助の検討を求めました。

○信州F・パワープロジェクトを担っている企業が破綻し、現在は民事再生計画案が裁判所に出された段階。手続きの途中にあっても製材事業が安定的に継続し、川下の事業者に対応しているか質しました。

